

リンパ節穿刺吸引細胞診のフローサイトメトリー検査が早期診断に寄与した B-ALL の一例

◎野口 和洋¹⁾、山口 香織¹⁾、梅本 華帆¹⁾、金子 洋平²⁾、竹林 英幸²⁾、竹平 祥紀²⁾、小田 萌²⁾、酒井 隆弘¹⁾
日本赤十字社 長崎原爆病院 検査課¹⁾、日本赤十字社 長崎原爆病院 病理診断科部²⁾

【はじめに】

当院ではリンパ節等の穿刺吸引細胞診(FNA)において必要時にはフローサイトメトリー(FCM)検査を併用している。今回我々は、FNA の FCM 検査が B-ALL の早期診断に寄与した症例を経験したので報告する。

【症例】

患者は 10 代男性。頸部リンパ節腫脹を認め近医を受診。無痛性のリンパ節腫脹であり早期の精査が必要と判断され、当院耳鼻咽喉科に紹介受診となった。

【血液検査所見】

WBC:4.9×10⁹/L, RBC:5.39×10⁹/L, Hb:15.0 g/dL, MCV:78.8 fL, PLT:93×10⁹/L, ALB:5.1 g/dL, AST:106 U/L, ALT:273 U/L, LDH:365 U/L, CRP:0.48 mg/dL, sIL-2R:542 U/mL.
末梢血液像:stab 1.0 %, seg 37.0 %, Eo 3.5 %, Ba 0.5 %,
Mo 3.5 %, Ly 53.5 %, Aty-Ly 0.5 %, 芽球様細胞 0.5 %.

【FNA 所見】

軽度の核型不正を伴う中型リンパ球が単調な像で認められ悪性リンパ腫が疑われたため、FNA の残余検体で FCM

検査を追加。

【FCM 所見】

CD45(+), CD19(+), κ鎖(-), λ鎖(-). CD45 の発現が dim の細胞集団を認め、急性白血病を疑う所見であった。

【臨床経過】

FCM 所見を主治医へ報告し血液内科への紹介を提案。その後血液内科医師より FCM の追加検査依頼があり TdT(+) であった。以上の所見より B-ALL/LBL が疑われたため、移植を含めた治療目的で他院へ紹介となり、紹介先の病院で B-ALL の診断となった。

【まとめ】

B-ALL では通常末梢血に多数の芽球細胞を認める。本症例では明らかな芽球細胞の増加は認めず、末梢血液像からは B-ALL を疑うことが困難であったが、FNA の FCM 検査が早期診断に有用であった。また、検査室から臨床側へ情報を発信する重要性を再認識した症例であった。

連絡先 095-847-1511(内線:1321)